

授業改善推進プラン 成果と課題

氏名（ 加藤 涼子 ） 担当教科（ 音楽 ） 学年（ 1年 ）

目指す授業

- 音楽を身近に感じ、多種多様な音楽に触れ、音楽体験を通して生徒の音楽の世界を豊かにする授業。
- 音楽的な表現技術を習得・向上させ、生徒同士が高め合う授業。



授業・アンケート等の課題分析

7月に行ったアンケートと比較すると、「授業のはじめに、目標（めあて・ねらい）が示されている。」に対して否定的な回答15%だったのに対し、2月は5%に減少した。同様に、「自分の考えを書いたり、発表したりする機会が与えられている。」は、否定的な回答が20%から9%に減少した。一方、「授業の最後に学習内容を振り返る場面がある」は否定的な意見が14%を占め、あまり変化が見られなかった。



成果と課題

成果

- 安全に配慮してペアやグループでの活動の工夫をしたことで、他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げられていると考えている生徒が10%以上増加し、生徒の間で積極的に学び合う様子が見られるようになった。
- 本時のねらいと流れを明確に示すことを意識的に行ったことで、多くの生徒が見通しをもって授業に取り組むことができた。

課題

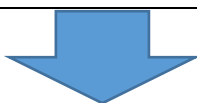
- 单元ごとの振り返る場면을意識的に設けたが、1時間ごとの振り返る時間の確保ができないことがあった。生徒が振り返りをを行っている意識が7月からあまり変化がないため、1時間ごとの振り返りを確実にできるように工夫する。
- 飛沫防止のため、歌唱やリコーダーなどの生徒が演奏する活動がほぼできなかった。生徒が「できた」と達成感を感じる授業プランを工夫することが課題である。

授業改善推進プラン 成果と課題

氏名（ 加藤 涼子 ） 担当教科（ 音楽 ） 学年（ 2年 ）

目指す授業

- 音楽を身近に感じ、多種多様な音楽に触れ、音楽体験を通して生徒の音楽の世界を豊かにする授業。
- 音楽的な表現技術を習得・向上させ、生徒同士が高め合う授業。



授業・アンケート等の課題分析

7月に行ったアンケートと比較すると、「生徒の間で学び合う活動を通して、他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げたりすることができている。」という項目で、否定的な意見が20%から5%に減少した。また、「授業の最後に学習内容を振り返る場面がある。」、「自分の考えを書いたり、発表する機会が与えられたりしている。」に対しては、全員が当てはまる・ほぼ当てはまると回答している。



成果と課題

成果

- 「自分の意見」→話し合い→「他の意見を聞いた後の自分の考え」の変化が感じられるようにワークシートの構成を工夫したことで、自分の考えを広げることができたと感じる生徒が増加した。
- 常時活動の充実を図り、音楽的な知識や経験を増やすことを意識したことで、苦手意識が少しずつ減り、積極的に取り組み学ぶ楽しさを感じている生徒が増加した。

課題

- 成果で変容した生徒がいる一方で、1、2名の生徒が授業で満足感を得られていない。苦手意識も感じられるので、そのような生徒も前向きに取り組めるような授業展開と発問をする必要がある。
- 飛沫防止のため、歌唱やリコーダーなどの生徒が演奏する活動がほぼできなかった。生徒が「できた」と達成感を感じる授業プランを工夫することが課題である。

授業改善推進プラン 成果と課題

氏名（ 加藤 涼子 ） 担当教科（ 音楽 ） 学年（ 3年 ）

目指す授業

- 音楽を身近に感じ、多種多様な音楽に触れ、音楽体験を通して生徒の音楽の世界を豊かにする授業。
- 音楽的な表現技術を習得・向上させ、生徒同士が高め合う授業。



授業・アンケート等の課題分析

「授業に積極的に取り組んでいる。」「授業のはじめに、目標が示されている。」「板書や資料がわかりやすい。」「自分の考えを書いたり、発表する機会が与えられたりしている。」の4項目では、全員が肯定的な回答をしている。一方、「授業の最後に学習内容を振り返る場面がある。」では、他の質問項目に比べ否定的な回答が目立った。



成果と課題

成果

- 「自分の意見」→話し合い→「他の意見を聞いた後の自分の考え」の変化が感じられるようにワークシートの構成を工夫したことで、自分の考えを広げることができたと感じる生徒が増加した。
- 安全に配慮してペアやグループでの活動の工夫をしたことで、他人の考えを取り入れ、自分の考えを広げられていると考えている生徒が増加し、生徒の間で積極的に学び合う様子が見られるようになった。

課題

- 成果で変容した生徒がいる一方で、1、2名の生徒が授業で満足感を得られていない。苦手意識も感じられるので、そのような生徒も前向きに取り組めるような授業展開と発問をする必要がある。
- 飛沫防止のため、歌唱やリコーダーなどの生徒が演奏する活動がほぼできなかった。生徒が「できた」と達成感を感じる授業プランを工夫することが課題である。
- 常時活動の充実を図り、音楽的な知識や経験を増やすことで、生徒一人一人の自信を深め、積極的な姿勢を育成する。